



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月13日

上場会社名 フリュー株式会社 上場取引所 東
コード番号 6238 URL <https://www.furyu.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）榎本 雅仁
問合せ先責任者 （役職名）財務経理部 部長 （氏名）谷 直樹 TEL 03-5728-1761
半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期中間期	21,482	△0.4	1,796	37.6	1,783	32.0	1,125	25.1
2025年3月期中間期	21,575	2.3	1,305	△46.2	1,351	△43.1	899	△43.2

（注）包括利益 2026年3月期中間期 1,146百万円（85.9％） 2025年3月期中間期 616百万円（△65.1％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	42.51	—
2025年3月期中間期	34.02	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期中間期	27,649	22,542	81.5
2025年3月期	28,110	22,424	79.8

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 22,542百万円 2025年3月期 22,424百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	39.00	39.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	39.00	39.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	45,000	1.6	3,000	34.0	3,000	31.5	2,150	32.1	81.25

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) フリュー・ピクチャーズ株式会社、除外 1社 (社名)

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期中間期	28,296,000株	2025年3月期	28,296,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	1,808,758株	2025年3月期	1,817,325株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年3月期中間期	26,481,594株	2025年3月期中間期	26,442,348株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付信託(BBT-RS)」が保有する当社株式(2026年3月期中間期 110,828株、2025年3月期 120,000株)が含まれております。また、「株式給付信託(BBT-RS)」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(2026年3月期中間期 116,591株、2025年3月期中間期 120,000株)。

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの状況の分析	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

（1）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2025年4月1日～2025年9月30日）における我が国の景気動向について、9月の日銀短観では、米政権の関税政策を巡る日米合意など不透明感の後退により、大企業の景況感が2四半期連続で改善した一方、原材料・物流費といったコスト上昇、物価高による消費の下押しへの懸念などから、景気の先行きは不透明な状況であります。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する！」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層に強みを持つ当社の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、キャラクターIP（知的財産）を利用した商品販売に注力し、2028年3月期を最終年度とする「中期ビジョン」実現に向けた取り組みを行いました。

この結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高は21,482百万円（前年同期比99.6%）、営業利益は1,796百万円（前年同期比137.6%）、経常利益は1,783百万円（前年同期比132.0%）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,125百万円（前年同期比125.1%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

（世界観ビジネス）

世界観ビジネスにおきましては、定番キャラクターや、人気漫画作品及び世界的人気ゲーム等のトレンドを踏まえた多数のIPの獲得とその商品化に引き続き注力し、売上は順調に拡大しました。

クレーンゲーム景品は、クレーンゲーム市場拡大と複数の人気IPの商品化に加え、商品数の拡大を図った結果、前年同期と同水準の売上となりました。

海外物販は、主要マーケットである中国及び米国、欧州を中心に、売上が伸長しております。海外向けの商品化権の取得に注力し、商品構成を強化すると共に、新規販売先の開拓を通じて、流通拡大を図っております。

高価格帯ホビーは、収益性を重視した人気IPの商品化を推進し、事業の安定化に引き続き注力しております。

為替変動に対しては、ドル建ての仕入費用支払に対する為替予約の実施や、海外取引先とのドル建て取引を拡大することにより、営業利益への影響を抑制しております。

この結果、世界観ビジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は13,566百万円（前年同期比109.1%）、営業利益は1,354百万円（前年同期比148.0%）となりました。

（ガールズトレンドビジネス）

プリントシール事業におきましては、新型コロナウイルス感染症がもたらしたライフスタイルやニーズの多様化といった外部環境の変化に対応するため、従来よりも「+αの価値」を体験できる新機種の開発やプレイ促進キャンペーンの実施などにより、プレイ数拡大を図りました。2025年7月には、SNSへの投稿のしやすさを追求した新機種「Meidy（メイディー）」を発売しました。また、7月1日より対象プリ機で1回撮影すると新機種「Hyper shot」の撮影が1回無料になる2回目無料キャンペーンをスタートし、市場活性化を図りました。しかしながら、施策単体での効果はあったものの、市場全体の底上げには至らず、当中間連結会計期間のプレイ回数は1,362万回（前中間連結会計期間は1,491万回）と前年同期比で減少しました。

プリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」におきましては、有料会員規模を維持するための新規入会者の流入強化施策を実施したものの、2025年9月末時点で126万人（2024年9月末時点は139万人）と前年同期比で減少しました。なお、2025年7月1日よりピクトリンクの有料会員コース体系をプレミアム会員コースに一本化し、サービスレベルと価格の統一を行うことで、収益の安定化を図っております。

この結果、ガールズトレンドビジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は6,847百万円（前年同期比95.7%）、営業利益は1,521百万円（前年同期比86.5%）となりました。

（フリーニュービジネス）

家庭用ゲームソフト事業につきましては、既存タイトルの国内外におけるダウンロード販売が順調であったものの、新作タイトルの海外販売の伸び悩み等により、前年同期比で売上は減少しました。

アニメ事業は、7月に投資タイトル2作品の放映を開始しましたが、前年は、TVアニメ「ゆるキャン△」第3期の放映開始により売上が大変好調だった影響により、前年同期比で売上は減少しております。

なお、カラーコンタクトレンズ事業の事業譲渡とゲームアプリ事業のサービス終了により、前年同期比、セグメントの収益性は改善しております。

この結果、フリーニュービジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は1,069百万円（前年同期比53.8%）、営業損失は49百万円（前年同期は270百万円の営業損失）となりました。

（2）当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の財政状態は、総資産が27,649百万円、負債が5,106百万円、純資産が22,542百万円となりました。また、自己資本比率は81.5%となりました。

（資産）

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ461百万円減少し、27,649百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加393百万円、無形固定資産の増加231百万円があった一方で、現金及び預金の減少395百万円、受取手形及び売掛金の減少216百万円、流動資産のその他の減少307百万円、有形固定資産の減少164百万円があったことによるものであります。

（負債）

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ579百万円減少し、5,106百万円となりました。これは主に未払法人税等の増加566百万円があった一方で、電子記録債務の減少261百万円、流動負債のその他の減少850百万円があったことによるものであります。

（純資産）

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ118百万円増加し、22,542百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益計上に伴う利益剰余金の増加1,125百万円、繰延ヘッジ損益の増加44百万円があった一方で、配当金の支払いによる利益剰余金の減少1,037百万円、為替換算調整勘定の減少24百万円があったことによるものであります。

（3）当中間期のキャッシュ・フローの状況の分析

当中間連結会計期間の現金及び現金同等物は、営業活動による収入が1,958百万円、投資活動による支出が1,289百万円、財務活動による支出が1,040百万円となった結果、前連結会計年度末に比べ399百万円減少し11,328百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動においては、税金等調整前中間純利益を1,701百万円、減価償却費を1,033百万円計上しました。また、売上債権は151百万円減少、棚卸資産は393百万円増加、前渡金は291百万円減少、仕入債務は282百万円減少、未払費用は215百万円減少となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、1,958百万円の収入（前中間連結会計期間は2,021百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動においては、有形固定資産の取得による支出が913百万円、無形固定資産の取得による支出が411百万円となりました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、1,289百万円の支出（前中間連結会計期間は1,160百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動においては、セール・アンド・リースバックによる収入が913百万円、リース債務の返済による支出が916百万円、配当金の支払額が1,037百万円となりました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、1,040百万円の支出（前中間連結会計期間は1,033百万円の支出）となりました。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年5月14日に公表いたしました数値に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,733,051	11,337,937
受取手形及び売掛金	4,103,294	3,887,123
電子記録債権	1,044,899	1,109,483
棚卸資産	2,912,342	3,305,617
その他	2,604,839	2,297,807
貸倒引当金	△5,246	△2,627
流動資産合計	22,393,180	21,935,342
固定資産		
有形固定資産	2,940,927	2,776,171
無形固定資産	971,048	1,202,128
投資その他の資産		
その他	1,821,969	1,752,118
貸倒引当金	△16,650	△16,590
投資その他の資産合計	1,805,319	1,735,528
固定資産合計	5,717,295	5,713,828
資産合計	28,110,476	27,649,170
負債の部		
流動負債		
買掛金	659,006	638,665
電子記録債務	714,657	452,818
未払法人税等	62,306	629,233
受注損失引当金	44,319	6,042
その他	3,881,791	3,031,681
流動負債合計	5,362,082	4,758,440
固定負債		
役員株式給付引当金	8,686	4,803
退職給付に係る負債	309,728	333,921
その他	5,945	9,818
固定負債合計	324,360	348,543
負債合計	5,686,442	5,106,984
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,614,716	1,614,716
利益剰余金	21,098,548	21,186,971
自己株式	△1,949,562	△1,940,349
株主資本合計	22,402,918	22,500,553
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△48,656	△4,135
為替換算調整勘定	23,972	△440
退職給付に係る調整累計額	45,798	46,208
その他の包括利益累計額合計	21,115	41,632
純資産合計	22,424,034	22,542,186
負債純資産合計	28,110,476	27,649,170

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）	当中間連結会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）
売上高	21,575,361	21,482,867
売上原価	13,025,051	13,036,767
売上総利益	8,550,310	8,446,100
販売費及び一般管理費	7,244,588	6,649,520
営業利益	1,305,722	1,796,579
営業外収益		
受取利息	36	160
助成金収入	881	—
為替差益	39,612	—
投資事業組合運用益	8,138	—
還付消費税等	0	366
その他	732	109
営業外収益合計	49,401	635
営業外費用		
支払利息	568	104
為替差損	—	9,943
支払補償費	2,879	—
投資事業組合運用損	—	1,920
その他	159	1,286
営業外費用合計	3,607	13,255
経常利益	1,351,515	1,783,960
特別利益		
固定資産売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
固定資産除売却損	156	4,045
減損損失	—	78,661
特別損失合計	156	82,707
税金等調整前中間純利益	1,351,362	1,701,252
法人税等	451,757	575,481
中間純利益	899,605	1,125,770
親会社株主に帰属する中間純利益	899,605	1,125,770

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）	当中間連結会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）
中間純利益	899,605	1,125,770
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△277,593	44,520
為替換算調整勘定	△6,380	△24,413
退職給付に係る調整額	1,137	409
その他の包括利益合計	△282,835	20,517
中間包括利益	616,769	1,146,287
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	616,769	1,146,287

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,351,362	1,701,252
減価償却費	1,084,486	1,033,119
減損損失	—	78,661
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△316	△2,679
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	38,700	24,603
受取利息及び受取配当金	△36	△160
支払利息	568	104
為替差損益 (△は益)	4,633	4,387
固定資産除売却損益 (△は益)	153	4,045
売上債権の増減額 (△は増加)	1,071,019	151,587
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△388,593	△393,275
未収入金の増減額 (△は増加)	△1,450	71,018
前渡金の増減額 (△は増加)	241,778	291,253
仕入債務の増減額 (△は減少)	7,509	△282,035
未払金の増減額 (△は減少)	△164,938	△29,514
未払費用の増減額 (△は減少)	△13,584	△215,298
その他	△305,168	△460,984
小計	2,926,124	1,976,086
利息及び配当金の受取額	36	160
利息の支払額	△568	△104
法人税等の支払額	△891,763	△68,703
法人税等の還付額	—	51,162
解約違約金の支払額	△11,845	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,021,984	1,958,601
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△865,890	△913,251
有形固定資産の売却による収入	5	746
無形固定資産の取得による支出	△313,444	△411,831
差入保証金の差入による支出	△1,649	△493
その他	20,780	34,991
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,160,198	△1,289,838
財務活動によるキャッシュ・フロー		
セール・アンド・リースバックによる収入	871,323	913,147
リース債務の返済による支出	△874,031	△916,042
配当金の支払額	△1,031,160	△1,037,348
自己株式の取得による支出	△38	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,033,907	△1,040,248
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11,013	△28,249
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△183,135	△399,734
現金及び現金同等物の期首残高	11,489,282	11,728,385
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,306,147	11,328,650

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）

（連結の範囲の重要な変更）

当中間連結会計期間より、新設分割により設立したフリー・ピクチャーズ株式会社を連結の範囲に含めております。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 （注）1	中間連結 損益計算書 計上額 （注）2
	世界観ビジネス	ガールズトレンドビジネス	フリーニュー ビジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,436,864	7,151,938	1,986,558	21,575,361	—	21,575,361
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,436,864	7,151,938	1,986,558	21,575,361	—	21,575,361
セグメント利益又は損失 （△）	915,657	1,758,768	△270,205	2,404,220	△1,098,498	1,305,722

（注）1. セグメント利益又は損失の調整額△1,098,498千円には、セグメント間取引3,600千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,102,098千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	世界観ビジネス	ガールズトレンドビジネス	フリーニュー ビジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,566,084	6,847,388	1,069,394	21,482,867	—	21,482,867
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	13,566,084	6,847,388	1,069,394	21,482,867	—	21,482,867
セグメント利益又は損失 (△)	1,354,965	1,521,483	△49,412	2,827,036	△1,030,457	1,796,579

（注） 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,030,457千円には、セグメント間取引16,016千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,046,473千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ガールズトレンドビジネス」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては78,661千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。